

令和4年度 2学期児童・保護者・職員アンケート関連項目比較表 ※+は、あてはまる、どちらかといえばあてはまるの合計、-は、全くあてはまらない、あまりあてはまらないの合計

評価項目 ※青字=前期比5ポイント以上アップ 赤字=前期比5ポイント以上ダウン		あてはまる	+	どちらかといえばあてはまる	あまりあてはまらない	-	全くあてはまらない	
自らの考えをノートに書ける子どもの育成	児童	問題の解き方や考え方が分かるようにノートを書いている。	39%	80%	41%	15%	20%	4%
	職員	自分の考えを表すことができる児童を育成するため、1単位時間の中に可能な限り「書く活動」を位置付ける。	22%	83%	61%	17%	17%	0%
	保護者	お子さんは、学習中のノートを分かりやすく書くことができています。	24%	76%	52%	22%	24%	2%
	児童	学習中の話し合う活動やGIGA端末を使った活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	42%	79%	37%	16%	20%	4%
	職員	自分の考えをもたせるための手立てとして、問題を解いた後に、解き方の説明を互いに行う活動を設定するなど、主題研究部で、本年度の授業スタイルを話し合い、実践に生かす。また、タブレット活用研修を設定し、ICTの効果的な活用を図る。	18%	47%	29%	53%	53%	0%
	保護者	お子さんは、学習の中で友達と話し合う活動やタブレットを使う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができています。	22%	75%	54%	23%	25%	2%
	児童	学習の終わりに、黒板のキーワードを使って自分の言葉で、まとめをノートに書くことができています。	38%	67%	30%	23%	31%	9%
	職員	本時のまとめに用いるキーワードを板書することで、児童一人一人が「まとめ」をノートに書けるようにする。	26%	58%	32%	42%	42%	0%
	保護者	お子さんは、学習の終わりに、自分の言葉で、まとめをノートに書くことができています。	18%	62%	45%	32%	38%	5%
自分や友達のよさに気づき認め合う子どもの育成	児童	「にこにこタイム」の取組などで、友だちの、よいところを見つけたことがある。	60%	83%	23%	11%	16%	6%
	職員	にこにこ委員会が、にこにこボックスに投かんされた、にこにこカードを昼休みに放送する「にこにこタイム」などの取組を行い、自分や友達のよさに気づき認め合う活動の推進を図る。	32%	89%	58%	11%	11%	0%
	保護者	お子さんは、友達のよいところについて話をするところがある。	54%	88%	34%	9%	12%	3%
	児童	先生や友だちから、あなたのよいところを、ほめてもらうことがある。	49%	83%	33%	11%	17%	6%
	職員	自尊感情を高めるため、特別活動、道徳の学習中や帰りの会に、互いのよい点を認め合う活動を積極的にを行う。	41%	88%	47%	12%	12%	0%
	保護者	お子さんは、先生や友だちなどにほめてもらったり拍手してもらったりした話をするところがある。	55%	86%	30%	11%	14%	4%
	児童	自分にはよいところがあると思う。	39%	72%	33%	14%	27%	13%
	職員	児童を認める事例や方法を出し合い、共有するため、職員研修の中で各学級の活動をシェアしたり、毎月の生徒指導部会で、学級からクラスの現状や取組を報告し、情報共有を行ったりする。	17%	83%	67%	17%	17%	0%
	保護者	お子さんは、自分によりよいところがあることに気付いている。	33%	80%	47%	18%	20%	2%
日常的に運動に親しむ子どもの育成	児童	運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツをすることが好き。	69%	88%	19%	8%	11%	3%
	職員	スポーツテストの結果を体育部会で分析し、子どもの課題にそった具体的な補助運動やスポーツ委員会を中心にした取組(昼休みの活動等)を新型コロナウイルス感染症の動向を鑑みながら取り入れる。	18%	73%	55%	27%	27%	0%
	保護者	お子さんは、運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツをすることが好きな方だと思う。	61%	83%	22%	14%	17%	3%
	児童	体育の学習を楽しみにしている。	67%	88%	21%	8%	11%	3%
	職員	3年生以上の体育科の学習で専科指導を導入するなどし、全学年で楽しくながらも、より専門的に児童の体力を伸ばす授業を構築する。	75%	100%	25%	0%	0%	0%
	保護者	お子さんは、体育の学習を楽しみにしている。	62%	87%	25%	10%	13%	3%
	児童	苦手な運動も、準備運動から、すすんで取り組むことができています。	55%	84%	30%	12%	15%	3%
	職員	苦手な運動へのハードルを少しでも下げるため、各学年の課題および実施単元をふまえた準備運動や補助的な運動を実施する。(体育『すきちゃ』プログラムから選択)	27%	91%	64%	9%	9%	0%
	保護者	お子さんは、苦手な運動にも進んで取り組んでいる。	37%	77%	41%	20%	23%	3%
学校が好きな子どもの育成	児童	学校、教室は、居心地がいい。	55%	81%	25%	14%	19%	5%
	職員	自己肯定感を感じられる「居場所づくり」の推進を図るため児童が活躍できる場面の実現を目指し、異年齢集団での活動や日々の授業や行事等で、児童が活躍できる場面を設定する。(月1回以上)	50%	85%	35%	15%	15%	0%
	保護者	お子さんは、学校や教室は居心地がよいと感じていると思う。	48%	91%	43%	7%	9%	2%
	児童	学校へ行くことを楽しみにしている。	47%	76%	29%	14%	24%	10%
	職員	状況や背景に気を配った、きめ細やかな対応を図る。学年、学校全体で不登校傾向にある児童を情報共有し、悪化傾向が見えてきたら、即チームで対応を開始する。児童に寄り添い、個別の教育相談や電話連絡、家庭訪問を行う。	52%	86%	33%	14%	14%	0%
	保護者	お子さんは、学校に行くことを楽しみにしている。	54%	88%	34%	9%	12%	3%
	児童	困ったときには、友だちや先生が助けてくれる。	66%	89%	23%	6%	11%	4%
	職員	「心のアンケート」と「全員面談」を確実に実施する(年2回)など、児童の心の状態を把握し指導に生かすための取組をする。	47%	88%	41%	12%	12%	0%
	保護者	お子さんが、困ったときには友達や先生が助けてくれている。	58%	94%	35%	5%	6%	1%